

名 譽 会 員



佐 野 幸 吉 君

君は昭和 7 年東北帝国大学理学部化学科卒業後、同大学金属材料研究所において研究に従事、昭和 14 年同大学助教授となり昭和 15 年名古屋帝国大学の創設とともに招かれ化学冶金講座を担当、昭和 17 年同大学教授に昇任した。昭和 31 年より 34 年まで同大学工学部長、昭和 38 年同教養部長となり現在に至っている。

この間鉄鋼製錬の基礎反応に関する化学冶金学的研究に専念し、学術上、工業上貴重な研究成果を発表、その業績は斯界に貢献するところがきわめて大きい。昭和 37 年に本会より「硫酸焼鉱の脱銅に関する研究」論文で俵論文賞を受賞したのをはじめ関連団体から幾多の表彰を受けている。また研究者の育成、学生の教育に尽瘁し、特に技術革新の速度の速い時代に対応しうる創造力ある科学者技術者を養成するための科学技術教育制度の改善に熱意を傾け機会あるごとに唱導している。

本会に関しては昭和 41 年から 2 年間会長としてその発展に尽力し、特に 41 年 9 月から 10 月にかけて本会が派遣した鉄鋼使節団の団長としてオランダ、ベルギー、ルクセンブルグおよびドイツを訪問、技術交流と親善交歓に成果をあげた。その際ドイツ鉄鋼協会名誉会員に推挙された。また、42 年 10 月本会会長としてアメリカ金属学会総会に出席、両国の親善関係を増進せしめた。